

『関西グローバルヘルスの集い』第8弾

Health For Allへの道

健康の社会的決定要因

(Social Determinants of Health: SDH)

2024年1月23日



電気も水道もない
村のなかで、子どもたちはたくましく
生活し、遊び、(残念ながら)ときどき
病気になって、命
を落としていた。
(インドネシア・アサ
ハン県:1986年)

中村安秀

日本WHO協会理事長
(大阪大学名誉教授)

Closing the gap in a generation (一世代のうちに格差をなくそう)

健康の社会的決定要因に対する取り組みを通じた健康の公平性(WHO SDH委員会最終報告書: 2008年)

Health equity through action on the **social determinants of health (SDH)**

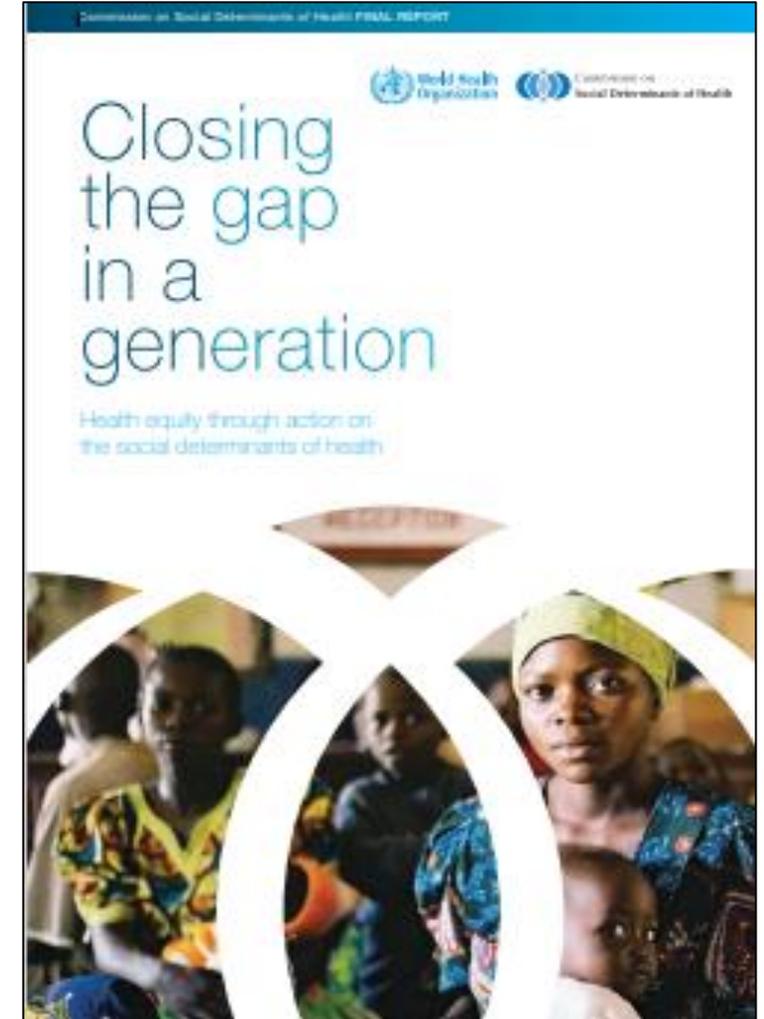
(Final report of the Commission on Social Determinants of Health)

Michael Marmot

Chair, Commission on Social Determinants of Health

Kiyoshi Kurokawa(黒川清氏:現日本医療政策機構代表理事)

19名の委員会メンバーの唯一の日本人



行動の3原則

- ①日常生活の状況、つまり人々が生まれ、成長し、生活して、働き、老いていく環境を改善する。
- ②権限、資金、リソース、つまり日常生活状況を形成する構造的な推進力となるものの不公平な分配に、国際レベル、国家レベル、地域レベルでそれぞれ対処する。
- ③問題を測定し、対策を評価し、知識基盤を拡大し、健康の社会的要因についてよく訓練された労働力を開発し、健康の社会的要因について一般の人々の認識を向上させる

日本福祉大学・日本語訳

「健康の社会的決定要因に関する委員会 最終報告書 要旨」

<http://sdh.umin.jp/translated/2008_csdh.pdf>

健康の社会的決定要因とは、何ですか？

- 1) 人々が生まれ、成長し、生活して、働き、老いていく環境に関連するすべての要因が含まれる
- 2) どこで生まれたかによって、人生のチャンスが劇的に異なる。
地理的環境、貧困、ジェンダー、教育、雇用、食料、環境、住居、民族、医療へのアクセス、障害の有無、ソーシャル・キャピタル、ストレス対応など多くの要因が関与している
- 3) (SDH委員会の見解) 国家間および国家内の健康における大きな、そして是正可能な格差を是正することは、社会正義の問題である。「健康格差の是正は倫理的な責務であり、社会的不公正が壮大なスケールで人々を殺しているのだ。」

世界は理不尽な健康格差に満ちあふれている

世界医師会(WMA)会長就任演説(2015年10月)

サー・マイケル・マーモット氏

「問題の一つは貧困です。もう一つは不平等です。ともに健康を損ない、健康の不公平な分配につながっています」

タンザニアで暮らす4,800万人と

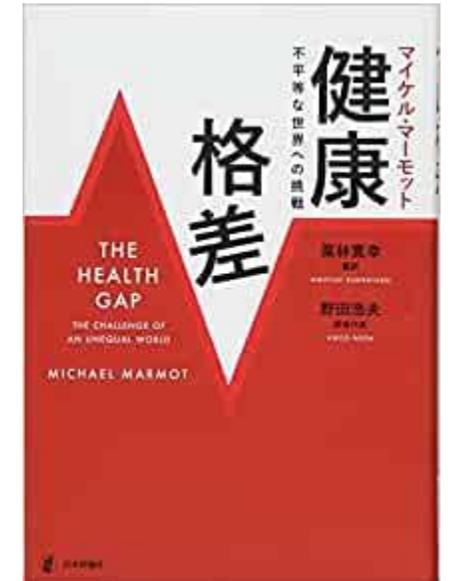
米国のヘッジファンドマネジャー25人の総所得がほぼ同じ！

「多額のお金があるにはあるのです。各国間の大きな不平等のせいで、貧困者に恩恵をもたらすやり方でお金が使われていないのです」

「医師は貧しい人々の生来の弁護人！！」

サー・マイケル・マーモット氏は、Social Determinants of HealthというWHO大規模調査チーム(2008年)のリーダーを務め、教育や貧困といった社会的要因が世代を超えて健康に大きな影響を与えている状況をエビデンスをもって示した。

代表作は「Health Gap: The Challenge of an Unequal World」。



『健康格差』(マイケル・マーモット著)
日本評論社 2017年

「わたしたちの世界を変革する」 持続可能な開発のための2030 アジェンダ

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development

2015年9月 第70回国連総会

- ・17の「持続可能な開発目標(SDGs)」
- ・169の具体的なターゲットを設定

理念

だれひとり取り残されない

(No one will be left behind)

この偉大な共同の旅に乗り出すにあたり、我々は誰も取り残されないことを誓う。

そして我々は、最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する。(外務省仮訳)

『SDGs』(南 博・稲場雅紀)岩波新書

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



国際保健医療学とは何か？

日本で最初に出版された「国際保健医療学」教科書において、当時の島尾忠男理事長は、「容認しがたい格差の是正」が国際保健医療学の本質であると看破した。

「健康の水準や保健医療サービスの程度には、国により、あるいは地域により、かなりの格差がみられており、このような格差があるのは当然であるが、その中には容認しがたい程度の格差もかなりみられている。なにを指標にして格差を測り、そしてどの程度以上の格差があれば、そのような格差は容認しがたいと考えるかが第一の課題であり、そのような格差の生じた要因の解明が第二の課題であり、格差を少なくする手段について研究するのが第三の課題であるというのが、筆者の国際保健医療学の定義の基本である。」

（島尾忠男：序文『国際保健医療学』杏林書院、2001）